

再評価結果（令和6年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課

担当課長名：高松 諭

事業名：空港・港湾等アクセス道路 一般国道150号 久能拡幅	事業区分：一般国道	事業主体：静岡市		
起終点：自：静岡県静岡市清水区蛇塚 至：静岡県静岡市駿河区大谷		延長：4.2 km		
事業概要 一般国道150号は、静岡県静岡市を起点とし同県浜松市に至る延長131kmの駿河湾沿いの幹線道路である。このうち久能拡幅は、静岡市清水区蛇塚を起点とし駿河区大谷に至る延長4.2kmの現道2車線区間を、渋滞解消、物流ネットワークの強化を目的に4車線化整備するものである。				
H20年度事業化	S47年度都市計画決定	H20年度用地着手		
H22年度工事着手				
全体事業費：約74億円	事業進捗率：約72%	供用済延長：1.61 km		
計画交通量：23,800台/日				
費用対効果	B/C (事業全体) 1.6 (残事業) 4.2	総費用 (残事業)/(事業全体) 29/78億円 (事業費：26/75億円 維持管理費：2.6/2.6億円 更新費：0.0/0.0億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 121/121億円 (走行時間短縮便益：114/114億円 走行経費減少便益：5.0/5.0億円 交通事故減少便益：1.9/1.9億円)	基準年 令和5年
感度分析の結果 (事業全体) 交通量：B/C=1.4~1.7 (交通量±10%) (残事業) 交通量：B/C=3.7~4.6 (交通量±10%) 事業費：B/C=1.4~1.7 (事業費±10%) 事業費：B/C=3.8~4.6 (事業費±10%) 事業期間：B/C=1.2~1.9 (事業期間±20%) 事業期間：B/C=3.3~5.2 (事業期間±20%)				
事業の効果等 (1) 渋滞解消 ・国道150号は大型車交通の利用が多く、2車線区間を中心に交通混雑が発生している。 ・4車線化整備により交通容量が拡大し、交通混雑の緩和が期待される。 (2) 物流ネットワークの強化 ・国道150号は、国際拠点港湾・清水港～日本平久能山SICを結び、物流ネットワークとして重要な路線。 ・整備により、清水港から日本平久能山SICへの所要時間が約4分短縮し、アクセス性の向上が期待される。 (3) 観光資源へのアクセスの向上 ・沿線には、久能山東照宮、石垣いちご狩り、三保の松原など、観光資源が点在している。 ・整備により、エリア間の所要時間が短縮され、新たな観光周遊ルートの創出が期待される。 (4) 救急医療機関へのアクセスの向上 ・整備により、三保地区周辺から静岡市中心部に立地する第三次救急医療機関への搬送時間の短縮が期待される。				
関係する地方公共団体等の意見 ・地方自治体（静岡市）、静岡地区国道150号整備促進期成同盟会より、早期整備促進を要望されている。				
事業評価監視委員会の意見 ・継続は妥当である。				
事業採択時より再評価実施までの周辺環境変化等 ・国道150号久能地区が平成31年4月に重要物流道路に指定される。 ・日本平久能山SICが令和元年9月に開通。				
事業の進捗状況、残事業の内容等 用地取得率約93%、事業進捗率約72% ・安居工区・根古屋工区：主に用地取得を進める。 ・中平松工区・青沢工区・古宿工区・安居工区：主に道路工を推進し、早期の効果発現を目指す。				
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 ・用地の取得を継続しており、取得箇所から道路改良工事を推進し、完了を目指す。				
施設の構造や工法の変更等 ・建設発生土を他事業等に流用することで、残土処分費用にかかるコストの縮減を図る。				
対応方針：事業継続				
対応方針決定の理由 ・国道150号久能地区の拡幅整備は、費用対効果も確保されており、静岡IC・日本平久能山SICと清水港を結ぶ物流ネットワークとして市民の期待も高いため、事業の継続が妥当と考える。				

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価値を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。